

佐賀県の農林水産業の概要

特徴・取組

佐賀県は九州の北西部に位置し、総土地面積が約2,400km²で、10市10町で構成されている。県北東部の脊振（せふり）山地は、北の玄界灘と南の有明海に向かって分水嶺をなし、有明海に面する南部は広大な佐賀平野を形成、我が国有数の穀倉地帯となっている。

年間平均気温は16℃前後、年間降水量は山間部で約2,500mm、平野部や北部の玄界灘付近で1,800mm程度である。

佐賀県の産業構造をみると、農業や水産業に代表される第1次産業のウェイトが全国に比べ高い。製造業では陶磁器が伝統産業として有名だが、最近では半導体や自動車関連産業の集積が進んでいる。

県内総生産（名目）は、令和元年度で3兆2,196億円となっており、これを産業別にみると、第1次産業が751億円（構成比2.3%）、第2次産業が9,382億円（構成比29.1%）、第3次産業が2兆1,950億円（構成比68.2%）となっている。

佐賀県の農業は、温暖な気候と肥沃な土壌など、恵まれた自然条件を活かしながら、米・麦・大豆を中心に、いちご、たまねぎ、アスパラガスなどの野菜、みかん、なしなどの果樹、肉用牛などの畜産等を取り入れた多様な生産を展開している。

耕地面積は5万200ha（令和4年）で、県の総面積の21%を占め、うち8割を占める田においては、二毛作（夏期に米・大豆、冬期に麦類・たまねぎ）が盛んで、耕地利用率（田畑計）は134%（令和3年）と36年連続で全国1位である。また、平野部では担い手への農地集積が特に進んでいる。

林野面積は11万127ha（令和4年）で、県の総面積の45%を占めている。また、人工林は7万3,521ha（令和4年）であり、人工林率が67%と全国一で、広葉樹等からなる天然林は少ない。

有明海では、のり類の養殖が盛んで、玄界灘では、いか、あじ、さば等の漁獲、内湾では、たい、真珠等の養殖が行われている。

「佐賀県『食』と『農』の振興計画2019」に基づき、稼げる農業の確立と活力ある農村の実現を柱に掲げ、農業経営体の創出及び次世代の担い手の確保・育成、並びに農村地域の振興及び農村の魅力向上に取り組んでいる。また、「新しい佐賀の森林づくりビジョン」に基づき、県産木材の利活用や森林の保全・整備を進めている。

主な農林水産物

米

うるち米には、県ブランド「さがびより」や「夢しずく」などがある。もち米は、全国でも有数の産地の一つである。



ハウスみかん

唐津地区での生産が多く、4月～9月に出荷されている。（収穫量全国1位）



茶

主産地の嬉野市は、「蒸し製玉緑茶（むしせいたまりょくちゃ）」を中心として、希少性の高い「釜炒り茶」の産地として知られている。



二条大麦

水田における水稻の後作として作付けされている。主な品種は、品質・収量に優れた「サチホゴールド」である。（収穫量全国1位）



大豆

「フクユタカ」を中心に、ブロックローテーションにより効率的に生産されている。



たまねぎ

白石地区を中心に甘みのあるたまねぎが生産されている。（収穫量全国2位）



いちご

鮮やかな赤色と爽やかな甘みが特徴の新品種「いちごさん」が、H30年にデビューし導入が進んでいる。（収穫量全国8位）



アスパラガス

平坦部を中心に栽培され、全国的にも早い時期から出荷が開始。収穫量も全国トップクラスである。（収穫量全国2位）



肉用牛

「佐賀牛」は、全国有数の銘柄牛となっている。香港・シンガポール等へ輸出し、好評を得ている。



のり類（養殖）

栄養分の豊かな有明海で、高品質なのりが生産されている。（生産枚数全国1位）



佐賀県内の各地域における農林水産物



佐賀県の農業（１）

- ・耕地面積は5万200haで全国29位。うち田が4万1,700ha、畑が8,470ha。
- ・農業経営体数は1万4,330経営体で全国37位。うち法人経営体が349経営体で37位。
- ・認定農業者数は3,691経営体で全国24位。うち法人が288法人で36位。

耕地面積

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
耕地面積	50,200 ha	4,325,000 ha	29
田	41,700 ha	2,352,000 ha	21
畑	8,470 ha	1,973,000 ha	34
普通畑	4,110 ha	1,123,000 ha	38
樹園地	4,320 ha	258,600 ha	18
牧草地	51 ha	591,300 ha	40
参考）総土地面積	244,067 ha	37,797,356 ha	42

出典：「令和4年耕地面積（7月15日現在）」、「令和5年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土交通省国土地理院）

荒廃農地面積

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	7,554 ha	259,502 ha	14

出典：「令和3年度の都道府県別の荒廃農地の発生状況」

担い手への農地の集積状況

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	35,875 ha	2,560,109 ha	17
集積率	71.0 %	58.9 %	2

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料（令和3年度版）」

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和5年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「0」：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）

「－」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「＊」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
農業経営体数	14,330 経営体	1,075,705 経営体	37
法人経営体	349 経営体	30,707 経営体	37
総農家数	18,645 戸	1,747,079 戸	42
販売農家	13,293 戸	1,027,892 戸	38
参考）世帯総数	312,680 世帯	55,830,154 世帯	43
集落営農数	507 集落営農	14,364 集落営農	12

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）、「集落営農実態調査（令和4年2月1日現在）」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	19,015 人	1,363,038 人	32
男	11,167 人	822,144 人	33
女	7,848 人	540,894 人	32
65歳以上	12,106 人	948,621 人	37
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	63.7 %	69.6 %	－
認定農業者数	3,691 経営体	222,442 経営体	24
法人数	288 法人	27,974 法人	36
参考）総人口数	811,442 人	126,146,099 人	41

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「認定農業者の認定状況（令和2年3月末現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

佐賀県の農業（ 2 ）

- ・ 農業産出額は1,206億円で全国27位。うち米が223億円、果実が204億円、肉用牛が181億円。
- ・ 農畜産物の生産状況は、二条大麦が全国1位、れんこん、アスパラガス、たまねぎが2位、小麦が3位。
- ・ 農業生産関連事業は、農家レストランの年間販売金額が8億円で全国12位、事業体数は20事業体で19位。

農業産出額

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
農業産出額	1,206 億円	88,384 億円	27
米	223 億円	13,699 億円	24
麦類	27 億円	709 億円	4 *
雑穀	0 億円	78 億円	41
豆類	12 億円	697 億円	8
いも類	5 億円	2,358 億円	38
野菜	309 億円	21,467 億円	25
果実	204 億円	9,159 億円	12
花き	35 億円	3,306 億円	29
工芸農作物	21 億円	1,727 億円	14
その他作物	9 億円	587 億円	17 *
畜産	356 億円	34,048 億円	27
肉用牛	181 億円	8,232 億円	10
乳用牛	19 億円	9,222 億円	42
生乳	16 億円	7,861 億円	42
豚	51 億円	6,360 億円	26
鶏	101 億円	9,364 億円	29
鶏卵	13 億円	5,470 億円	41
ブロイラー	87 億円	3,740 億円	8 *
その他畜産物	3 億円	869 億円	20
加工農産物	5 億円	549 億円	14

出典：「令和3年生産農業所得統計」

農畜産物の生産状況

区 分		年次	佐 賀 県	全 国	全国順位
二条大麦	収穫量	R4	46,200 t	151,200 t	1 *
れんこん	収穫量	R3	6,450 t	51,500 t	2
アスパラガス	収穫量	R3	2,520 t	25,200 t	2
たまねぎ	収穫量	R3	100,800 t	1,096,000 t	2
小麦	収穫量	R4	56,600 t	993,500 t	3
みかん	収穫量	R3	46,900 t	749,000 t	6 *
いちご	収穫量	R3	7,380 t	164,800 t	8
ブロイラー	出荷羽数	R4	16,440 千羽	719,259 千羽	9 *
肉用牛	飼養頭数	R4	52,800 頭	2,614,000 頭	13
水稻	収穫量	R4	117,200 t	7,269,000 t	24

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「畜産統計」

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分		佐 賀 県		全 国		全国順位
農産加工	総額	13,906 百万円		953,268 百万円		21
	事業体数	260 事業体		30,550 事業体		42
農産物直売所	総額	13,887 百万円		1,046,385 百万円		35
	事業体数	180 事業体		22,680 事業体		41
観光農園	総額	179 百万円		32,634 百万円		41
	経営体数	30 経営体		4,990 経営体		37
農家民宿	総額	28 百万円		3,992 百万円		26 *
	経営体数	10 経営体		1,180 経営体		25 *
農家レストラン	総額	838 百万円		30,336 百万円		12 *
	事業体数	20 事業体		1,260 事業体		19 *

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

佐 賀 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は25億円で全国38位。うち木材生産が24億円、栽培きのこ類生産が1億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国31位、わさび根茎が10位、わさび葉柄、竹材が15位。

林業産出額

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
林業産出額	25.3 億円	5,456.6 億円	38
木材生産	23.7 億円	3,254.1 億円	29 *
栽培きのこ類生産	1.0 億円	2,091.6 億円	47

出典：「令和3年林業産出額」

林野面積

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
林野面積	110,610 ha	24,770,201 ha	43
国有林	15,241 ha	7,153,338 ha	36
民有林	95,369 ha	17,616,863 ha	42
人工林面積	73,500 ha	10,133,111 ha	39

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
林業経営体数	406 経営体	34,001 経営体	31
法人経営体	58 経営体	4,093 経営体	29

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
素材生産量	145 千m ³	21,847 千m ³	31 *
針葉樹	134 千m ³	20,088 千m ³	31
すぎ	81 千m ³	12,917 千m ³	34
ひのき	53 千m ³	3,079 千m ³	22
広葉樹	11 千m ³	1,759 千m ³	29 *
わさび根茎	生産量 2 t	427 t	10
わさび葉柄	生産量 2 t	1,459 t	15
竹材	生産量 2 千束	916 千束	15
木・竹酢液	生産量 4,130 l	1,900,053 l	15

出典：「令和3年木材需給報告書」、「令和3年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
工場数	45 工場	3,948 工場	39
製材用素材の入荷があった工場数	45 工場	3,892 工場	39
国産材のみ	42 工場	3,138 工場	34
国産材と輸入材	3 工場	607 工場	38

出典：「令和3年木材需給報告書」

佐 賀 県 の 漁 業

- ・ 漁業産出額は306億円で全国15位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のこのしろが全国7位、海面養殖業の板のりが1位、内水面漁業のこいが13位。
- ・ 漁業生産関連事業は、水産加工の年間販売金額が35億円で全国13位、事業体数は20事業体で21位。

漁業産出額

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	306 億円	12,103 億円	15

出典：「令和2年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	1,609 経営体	79,067 経営体	19
内水面漁業経営体数	12 経営体	4,772 経営体	46

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	3,669 人	151,701 人	16
男	2,966 人	134,186 人	17
女	703 人	17,515 人	9

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
漁船隻数	4,855 隻	132,201 隻	10
動力漁船	1,854 隻	69,920 隻	15

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	66,611 t	4,163,072 t	18 *
海面漁業漁獲量	8,139 t	3,236,431 t	36
このしろ	76 t	3,698 t	7 *
海面養殖業収穫量	58,472 t	926,641 t	7 *
板のり	56,938 t	229,294 t	1 *
ふぐ類	216 t	2,833 t	4 *
まあじ	6 t	586 t	5 *
ぶり	892 t	99,804 t	11 *
内水面漁業・養殖業生産量	10 t	51,757 t	43 *
内水面漁業漁獲量	4 t	18,904 t	36
こい	0 t	143 t	13 *
内水面養殖業収穫量	6 t	32,854 t	43 *

出典：「令和3年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分	佐 賀 県	全 国	全国順位
水産加工	3,528 百万円	170,100 百万円	13 *
事業体数	20 事業体	1,470 事業体	21 *
水産物直売所	447 百万円	32,443 百万円	24 *
事業体数	10 事業体	820 事業体	20 *
漁家民宿	51 百万円	5,553 百万円	19 *
経営体数	10 経営体	800 経営体	16 *
漁家レストラン	74 百万円	9,696 百万円	25 *
事業体数	10 事業体	430 事業体	10 *

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

佐賀県の農林水産業の話題等（１）

条件の良い水田をフルに活用した農業の推進

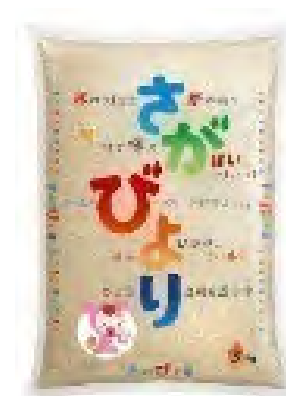
平坦地域の水田では、区画・排水等の生産基盤、共同乾燥調製施設等の整備等が進み、条件の良い水田を活用して、米・麦・大豆を組み合わせた生産性の高い土地利用型農業が展開されている。

また、集落営農組織等の担い手への農地利用集積が進み、機械・施設の有効利用等により低コスト生産を実現し、二毛作等による田の耕地利用率は134%（令和3年）と36年連続で全国第1位である。

さらなる麦・大豆の収量増と品質確保対策や農地利用の集積から集約化に向けたステップアップなどが課題となっている。



大豆不耕起播種機による播種作業



食味ランキング12年連続「特A」を獲得

園芸振興の更なる推進

県内各地域で、いちご、アスパラガス、きゅうり等の施設園芸が盛んで、中でもきゅうりでは統合環境制御システムの導入が進んでおり、通常の作型に比べ収量が高い。

いちごは、平成30年に鮮やかな赤色と爽やかな甘みが特徴の新品種「いちごさん」がデビューし、現在普及が進んでいる。

また、かんきつでは、佐賀県が20年以上の歳月をかけて品種開発した中晩柑の「にじゅうまる（佐賀果試35号）」が、令和3年にデビューした。食べ応えのある大きさや爽やかな香りで貯蔵性にも優れることから、今後の生産拡大に期待が寄せられている。

629億円（平成29年）に留まる園芸部門の産出額を令和10年時点で888億円に引き上げることを目指し、県ではJAや市町と連携し、園芸団地の整備支援や露地野菜の生産拡大支援などを行う「さが園芸生産888億円推進運動」を推進している。



統合環境制御試験ハウスでのいちごの試験



H30にデビューした「いちごさん」



無加温ハウスで栽培されている「にじゅうまる」



R3にデビューした「にじゅうまる」

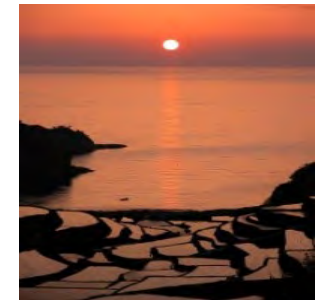
佐賀県の農林水産業の話題等（２）

中山間地域の振興

県北部の中山間地域では、条件の不利性等から担い手不足の問題を抱えているため、県は「さがの元気な中山間地域づくり対策」により特色のある米づくりや高品質な果樹や野菜等の生産拡大など農林業関係事業の拡充で後押しを行っている。また、棚田地域振興法を活用し、棚田を核とした振興を図る動きも活発に行われている。



蕨野の棚田



浜野浦の棚田

農林水産物等の輸出促進

ＪＡグループ佐賀のブランド牛である「佐賀牛・佐賀産和牛」は、香港、シンガポールなど東南アジアを中心に輸出促進が図られている。

【輸出実績：16.4トン（平成21年）⇒ 63.5トン（令和3年）】

日本酒は、佐賀県酒造組合が中心に関係機関と連携して、19の酒蔵が主に米国、中国、香港への輸出に取り組んでいる。



佐賀牛



The SAGA 認定酒

新規就農者の育成：「トレーニングファーム」の取組

県内の新規就農者を育成するため、ＪＡ、佐賀県、市町など関係機関が連携し、地域が重点的に振興する園芸品目の就農を希望する者に、研修ハウス「トレーニングファーム」での栽培技術研修や経営ノウハウを含む座学研修を平成29年度から実施しており、これまでに58名を受入れている。

また、研修後の独立に向け、農地、施設の確保まで含めてしっかりとサポートを行っており、それぞれ独立している。



トレーニングファームでの研修の様子

有明海のノリ養殖と森・川・海をつなぐ取組

有明海は、干満の差が最大6mと大きく、大小さまざまな河川が湾内に流入し、栄養分が豊かな漁場となっている。このような特徴を生かし、ノリ養殖が盛んに行われており、販売枚数・金額は19年連続“日本一”となっている。

県民の暮らしは、森・川・海つながりで守られていることの重要性の再認識を通して、稚魚放流や植樹体験などの保全活動につなげていく「森川海人っプロジェクト」に取り組んでいる。



有明海とノリ養殖



もりかわかいと

森川海人っプロジェクト